

【ねがいましては】

第60号

平成5年11月30日
共和珠算学習塾

「流される」

よく、私たちの生活の中で「流される」という現象が数多くみられます。例えば昨今の、お米不足から「おとなりでは、もう30kgもお米を買いだめしてるんですって！」と聞けば、翌日それいけーっと、慌てて我が家も30kg。「○○さんのご主人、今年の冬のボーナス、20万も出たんですって、私たちは貧しいわねー！」といった具合。

とかく身近な世間に心が流されてしまい、特に「もの」に対する流されは顕著のようです。しかし、よーく落ち着いて考えてみれば、いたって家族全員健康だし、食べるのもおいしいし、家庭の中はいつも笑いが絶えないし、と幸福な条件は満点！ 何をくよくよと考えていたのだろうと、ハッときがつく始末・・・というのはよくあるケースだと思います。

同じことが子どもたちの日常の学校生活でも繰り広げられています。

クラスの中で○○番とか、学校の中で○○番などと、すぐに考えてしまいます。

では、ある子が名門開成中学校の中で、学年ビリから2番目であっても、おそらくその子は公立の近隣の中学校へ通つていればおそらく「天才！」などとまくしたてられるかもしれません。開成中では「落ちこぼれ」と言われ、地元では「天才」。これ何かのなぞなぞの問題になりそうです。

逆もそうです。地元の学校ではいつもトップクラスで鼻高々！ つんつんしていても、ひとたび開成中へ行ってみればガツン！と一発、しょぼくれるわけです。

というわけで、教室や学校のムードにとかく子どもたちは流され続けているわけです。それを素直に受け取っているのもお母さん方なのかもしれません。

ある学校での定期テスト、その平均点は50点だったなどと結果が出てきます。すると51点の子は結構喜びます。間違えた49点分については、どうして間違えたのだろうなどと、心は動きません。(実はここがとても大切な所なのです)

さて、ある学校では、全く同じ問題で平均87点だったとします。先ほどと同じ51点をとった子は、もう下を向いて落ち込みます。同じ51点なのに、こんなにも気分は違ってしまいます。

なんと小さな器の中で心がこんなにも動かされてしまうのかと、ため息が出ます。要は、自分を見失うなということです。周りに流されるなということです。

さて、先日私は「学校」という映画を見てきました。まあ「映画」ですから現実とは多少ずれたところも感じられましたが、その中には私にとっての「夢」のようなものが溢れていきました。この「学校」の終わりに、つまりクライマックスに「人間流されちゃーいけないよ」と言っているような訴えが感じられました。学校が忘れてしまった「学校らしい学校」「人情味のある温かい風」が教室の中にあふれている姿があります。

人は人なり、人らしく我が道を歩こうじゃないかと元気づけられました。

☆12月の予定

12月より珠算科ではサッカーをまねして、Jリーグなる競技を始めます。各チームともに自由に参加できます。

12月 7日(火) 検定試験合格発表

24日(金) 学習科・珠算科クリスマス会

冬期講習を今年も予定しています。詳しいことは別紙にてお知らせします。

冬休みの予定も別紙にてお知らせします。アイススケートを予定しています。